

医療機械の整備などの方針、9月議会までに示すと約束

診療所医師の安定的確保めぐり厚生常任委員会で議論

市議会は6日にスタートしています。9日からは常任委員会審査が始まり、10日は私が新たに所属することになった厚生常任委員会でした。

委員会では有間川に新設される「たにはま保育園」に関する保育所条例の一部改正や一般会計補正予算などが審議されました。

議論が集中したのは診療所の医師確保の問題です。補正予算では、診療所に勤務する医師の安定的な確保のため、給与面における処遇改善経費が盛り込まれていました。審議では「給与面における処遇改善はすべての診療所医師に及ぶのか」「医師からはどういう要望が出ているか」などの質問が相次ぎました。

健康福祉部の栗本部長や担当課長は、「給与改善はすべての診療所医師が対象となる」「医師からは、給与改善だけでなく、24時間拘束される体制のことや医療機械



厚生常任委員会で質問する私

整備などで要望が出ている」と答弁しました。

私からは、「お医者さんから来てもらうことと同時に、長く勤務していただけるよう条件整備が重要だ。医師確保のために全体としてどういう対策を進めようとしているのか」「医療機械などの整備の要望はどこの診療所からどれだけ出ているのか」明らかにするよう求めました。

担当課長からは、「医療機械は（新たな機械導入だけでなく）経年劣化による更新もある。毎年2500万円から3000万円予算措置している。5～6年の年次計画で整備を進めていく予定だ」という答弁がありました。しかし、具体的などころや医師確保を全体的にどう進めていくかが示されませんでしたので、9月議会までに文書で示すよう強く求めました。栗本健康福祉部長は、文書で整理できるよう努力したいと約束しました。

行政側の責任棚上げして 関係者から差額徴収

この日の厚生常任委員会では、後期高齢者医療制度において、年度途中に所得変更があった場合の負担割合変更措置も問題になりました。負担割合の変更というの

は、所得の修正申告や世帯構成の変更に伴い、負担割合が1割から3割へ、または3割から1割へと変わることをいいます。

市の報告によると、平成24年度に実施された国の会計検査において、これまで、負担割合変更に伴う事務処理が適切に行われていなかったとの指摘があり、新潟県後期高齢者医療広域連合で対応策を検討した結果、平成20年度までさかのぼって対応することになったというのです。

私は、「負担が少なくなつて差額を支給される場合はいいが、問題は負担が増え、差額を徴収される場合の対応だ。行政側には負担割合変更に伴う事務処理をしなければならぬ責任がある。（そのことを



【ウツギ】アジサイ科の落葉低木。漢字で「空木」と書きます。花を開くと、写真とは違った感じになります。小山作之助の「夏は来ぬ」の歌に出てくる「卵の花」はこの花です。

棚に上げて）関係者にお金を出してくださいというのはおかしい」と指摘しました。

戦没者は8053人にも

市内各地で戦没者慰霊祭が行われています。このほど、市役所から県に働きかけてもらい、市内の地域別戦没者数を確認できました。左の表がそれです。戦争によって、こんなにも多くの人が命を落としています。

戊辰戦争～第二次世界大戦までの上越市戦没者数

	戦没者数	そのうち第二次大戦での戦没者
合併前上越市	3,365	2,209
安塚区	416	192
浦川原区	241	125
大島区	286	108
牧区	361	130
柿崎区	701	306
大潟区	320	224
頸城区	351	202
吉川区	417	175
中郷区	207	135
板倉区	523	250
清里区	214	100
三和区	370	210
名立区	281	138
計	8,053	4,504

はしづめ法一の活動レポート

No.1661 2014.6.15
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第三〇九回 チマキ

いつも大きな体を揺さぶって動くSさんの姿が見えないからおかしいなと思っていました。何ということでしょう、腰の骨を折って四五日も入院していたのです。

Sさんは今年、八八歳になりました。二か月ほど前、ちよつとした拍子に厨房で転倒してしまったといいます。打ちどころが悪かったようで激痛が走りまわりました。直江津の病院に入院し、手術を受け、ある程度落ち着いたところで柿崎病院へ転院しました。そこでリハビリをやりました。病院の職員さんたちに「お母さん、リハビリ、ちゃんとしなけりや、寝たきりになるよ」と言われ、必死になって努力した結果、退院することができました。

私が訪ねた日、二階へ上がる階段の一番下には小さな紙の箱があり、その中にはトマトが三個、大きな丸なすが二個、それに豆腐が一丁入っていました。大瀧のマルキンさんから購入したものです。

この箱があるということはSさんがいるに違いない。そつとのぞいてみると、すでに私に気付いていたようで、「きない、きない」と手招きしています。厨房の中に入ると、そこには五月に満九〇歳になったお連れ合いのKさんの姿もありました。

真ん中のおおきな調理台の脇の椅子に座ったSさんは、お茶をすすめてくださり、「これ、初もん、おばあちゃんに持って行ってくれない」とチマキを六個出してくれました。ガスレンジを見ると、そこには大きな鍋がのせられています。二人は今年初めてのチマキづくりをしていたのです。Sさんはこれをやりたくて頑張ったんですね。

Sさんは退院したばかりですので、いうまでもなく無理はできません。動きもまだまだです。Kさんがどういう役割をしているかはすぐにはわかりませんでした。「はい、そろそろ、いいだろ」というSさんの言葉を確認したKさんが鍋のふたを開け、そばを茹でた時に使う水切りでチマキを数個ずつすすくっては鍋の外へと出していました。茹でたチマキを乾かすのもKさんの役目でした。

私の目の前でKさんがやっていたのはチマキづくりの第二陣でした。この日、チマキは二回茹で、一回目のものを一部を私がもらったのでした。見ていて、分かったのですが、Sさんは笹に米を入れて巻く仕事など自分でできることは自分でやり、鍋に入れて茹でる、あげる、干すなど力のいる仕事はすべてお連れ合いに頼んだんですね。その二人の呼吸が見事に合っているのにはびっくりしました。

ひと段落してから三人でお茶会をやりました。お茶を飲み始めてまもなく、Sさんは画像を見ながら手術してもらったときのことを体をひねりながら解説してくれました。よほど印象に残ったのでしよう、鉄をどこに、どんなふうに入れたとかの話はまるで実況中継を聴いているようでした。

「若い時の半分も仕事できなくなつた」と切り出したKさんの話もまた興味深いものでした。四九年前の新潟国体のときといえますから、四〇歳頃の話です。驚いたことに、Kさんは国体旗を持って柏崎から柿崎まで走ったというのです。長距離走は得意だったようで、子どもさんにも引き継がれています。

母へ渡してくれというチマキは、私もご馳走になりました。茹で加減もちょうどよく、何もつけなくても美味しいものでした。私はSさんの執念を感じました。Kさんと二人で力を合わせて作ったチマキのこの味は一生忘れることがないでしょう。

うちわ片手に河童が踊る…楽しさいっぱいのかっぱ祭り

8日の夕方、大瀧かっぱ祭りの民謡流しを見てきました。会場となった四ツ屋浜の通りは踊り子と観客でいっぱいになりました。

電柱にくくりつけられたスピー

カーからは、「お月様さえゆらゆら沈む。花が咲いたよ、はずかしそうちに……」踊りにぴったりの歌が流れていました。踊りの途中ではバン、バン、バンという団扇をたたく音が一斉に出ます。団扇の音がこんなにも心地よいものだとは知りませんでした。

この民謡流しの特徴は何と言っても仮装です。赤ちゃん河童も高齢河童もたくさん登場、楽しく踊っていました。前日の神輿行列といい、民謡流しといい、素敵な祭りでした。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	6月4日(水)	6月11日(水)
上越南消防署	0.036	0.033
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.060	0.060
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.050	0.053



写真は工事中の遊戯室。9日、私が撮影。

たにはま保育園を視察
有間川、長浜など4保育園を統合する「たにはま保育園」を視察してきました。新潟県産材がたくさん使われていて、木の香りもしました。遊戯室も保育室もゆったり感がありました。同保育園は9月に開園の見通しです。

いつも大きな体を揺さぶって動くSさんの姿が見えないからおかしいなと思っていました。何ということでしょう、腰の骨を折って四五日も入院していたのです。

Sさんは今年、八八歳になりました。二か月ほど前、ちよつとした拍子に厨房で転倒してしまったといいます。打ちどころが悪かったようで激痛が走りまわりました。直江津の病院に入院し、手術を受け、ある程度落ち着いたところで柿崎病院へ転院しました。そこでリハビリをやりました。病院の職員さんたちに「お母さん、リハビリ、ちゃんとしなけりや、寝たきりになるよ」と言われ、必死になって努力した結果、退院することができました。

私が訪ねた日、二階へ上がる階段の一番下には小さな紙の箱があり、その中にはトマトが三個、大きな丸なすが二個、それに豆腐が一丁入っていました。大瀧のマルキンさんから購入したものです。

この箱があるということはSさんがいるに違いない。そつとのぞいてみると、すでに私に気付いていたようで、「きない、きない」と手招きしています。厨房の中に入ると、そこには五月に満九〇歳になったお連れ合いのKさんの姿もありました。

真ん中のおおきな調理台の脇の椅子に座ったSさんは、お茶をすすめてくださり、「これ、初もん、おばあちゃんに持って行ってくれない」とチマキを六個出してくれました。ガスレンジを見ると、そこには大きな鍋がのせられています。二人は今年初めてのチマキづくりをしていたのです。Sさんはこれをやりたくて頑張ったんですね。

Sさんは退院したばかりですので、いうまでもなく無理はできません。動きもまだまだです。Kさんがどういう役割をしているかはすぐにはわかりませんでした。「はい、そろそろ、いいだろ」というSさんの言葉を確認したKさんが鍋のふたを開け、そばを茹でた時に使う水切りでチマキを数個ずつすすくっては鍋の外へと出していました。茹でたチマキを乾かすのもKさんの役目でした。

私の目の前でKさんがやっていたのはチマキづくりの第二陣でした。この日、チマキは二回茹で、一回目のものを一部を私がもらったのでした。見ていて、分かったのですが、Sさんは笹に米を入れて巻く仕事など自分でできることは自分でやり、鍋に入れて茹でる、あげる、干すなど力のいる仕事はすべてお連れ合いに頼んだんですね。その二人の呼吸が見事に合っているのにはびっくりしました。

ひと段落してから三人でお茶会をやりました。お茶を飲み始めてまもなく、Sさんは画像を見ながら手術してもらったときのことを体をひねりながら解説してくれました。よほど印象に残ったのでしよう、鉄をどこに、どんなふうに入れたとかの話はまるで実況中継を聴いているようでした。

「若い時の半分も仕事できなくなつた」と切り出したKさんの話もまた興味深いものでした。四九年前の新潟国体のときといえますから、四〇歳頃の話です。驚いたことに、Kさんは国体旗を持って柏崎から柿崎まで走ったというのです。長距離走は得意だったようで、子どもさんにも引き継がれています。

母へ渡してくれというチマキは、私もご馳走になりました。茹で加減もちょうどよく、何もつけなくても美味しいものでした。私はSさんの執念を感じました。Kさんと二人で力を合わせて作ったチマキのこの味は一生忘れることがないでしょう。

うちわ片手に河童が踊る…楽しさいっぱいのかっぱ祭り

8日の夕方、大瀧かっぱ祭りの民謡流しを見てきました。会場となった四ツ屋浜の通りは踊り子と観客でいっぱいになりました。

電柱にくくりつけられたスピー

カーからは、「お月様さえゆらゆら沈む。花が咲いたよ、はずかしそうちに……」踊りにぴったりの歌が流れていました。踊りの途中ではバン、バン、バンという団扇をたたく音が一斉に出ます。団扇の音がこんなにも心地よいものだとは知りませんでした。

この民謡流しの特徴は何と言っても仮装です。赤ちゃん河童も高齢河童もたくさん登場、楽しく踊っていました。前日の神輿行列といい、民謡流しといい、素敵な祭りでした。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	6月4日(水)	6月11日(水)
上越南消防署	0.036	0.033
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.060	0.060
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.050	0.053



写真は旧勝穂小体育館。6日、私が撮影。

緊急避難場所等で質問

6日、吉川区総合事務所主催の地区別懇談会に参加してきました。

指定緊急避難所をどこにするか、県道の草刈りを集落でやる場合の補助、大出口川の河床掘削などについて質問が相次ぎました。